令和元年度 日本電子専門学校
第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間　　自：平成３０年４月　１日
　　至：平成３１年３月３１日

令和元年７月

学校関係者評価委員会

目　　次

Ⅰ　学校関係者評価の概要と実施状況　・・・・・・・・・・・・・3

1. 学校関係者評価の目的と基本方針　・・・・・・・・・・・・・3
2. 学校関係者評価委員名簿　・・・・・・・・・・・・・4
3. 学校関係者評価委員会の実施状況　・・・・・・・・・・・・・6
4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方　・・・・・7

Ⅱ　学校関係者評価報告書の見方　・・・・・・・・・・・・・・・・9

Ⅲ　学校関係者評価委員会評価結果報告書　・・・・・・・・・・10

１.総評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

２.項目別評価結果
教育重点項目　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
重点項目１　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
重点項目３　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

評価項目の達成及び取組状況
(2) 学校運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
(3) 教育活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
(4) 学修成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
(7) 学生の募集と受け入れ　・・・・・・・・・・・・・・17
(8) 財務　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
(10) 社会貢献　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
総合評価【学校の改善に資するご意見】・・・・・・・・・19

Ⅳ　学校関係者評価委員会　議事録　・・・・・・・・・・・・・21

１．　全体会自由意見　・・・・・・・・・・ 24
２．　分野別分科会　・・・・・・・・・・・ 26

議事録
① IT・Web 分野分科会 ・・・・・・・ 27
② セキュリティ分野分科会 ・・・・ 29
③ ビジネス分野分科会 ・・・・・・・ 30
④ 電気分野分科会 ・・・・・・・・・ 32
⑤ 電子分野分科会 ・・・・・・・・・ 35
⑥ ゲーム分野分科会 ・・・・・・・・ 36
⑦ アニメーション分野分科会 ・・・ 38
⑧ デザイン分野分科会 ・・・・・・・ 39
⑨ CG 分野分科会 ・・・・・・・・・ 41

Ⅰ　学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

１）目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

２）基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は､『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

３）委員会運営

令和元年度における学校関係者評価委員会を以下のように年 2 回の開催とする。

添付：自己点検評価／学校関係者評価

①第 1 回目(7 月)に実施する委員会は、平成 30 年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和元年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。

②第 2 回目（11 月）に実施する委員会は、令和元年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2.学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

属 性	氏　　名	所　　属	役　　職
企　業	浅賀　央起	株式会社ぴえろ	人事総務部　部長
	石本　則子	株式会社スタジオフェイク	代表取締役
	井沢　祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ
	川﨑　紀弘	株式会社コンセント	プロデューサー
	舟山　大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	乗浜　誠二	株式会社ナレッジコンスタント	代表取締役
	新　和也	オートデスク株式会社	ﾒﾃﾞｨｱ&ｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ ﾃﾘﾄﾘｰｽﾏﾈｰｼﾞｬｰ
	渡邉　登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木　伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
職能団体	満岡　秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation	理事
	篠原　たかこ	CG-ARTS （公益財団法人画像情報教育振興協会）	教育事業部 事業部長
	中台　浩正	東京商工会議所　新宿支部	事務局長
	原　洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井　翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会 副委員長
卒業生	谷　伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰ
	中山　秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
保護者	植村　美智子		
	本郷　幸子		
	厚川　万里子		
	竹中　伸江		
高校教員等	四條　勇人	株式会社ウィザス	教育運営部 ICT 推進室　室長
	松下　秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長
	勝間田　清一	日本大学生物資源科学部	非常勤講師
日本語学校	沼田　宏	株式会社インターカルト日本語学校	教務部長

地域住民	小澤　博太郎	百人町西町会	会長
在校生	大久保　匠真	コンピュータグラフィックス研究科	2年生
	菊地　聖治	Webデザイン科	2年生
	阿部　一恵	コンピュータグラフィックス科	1年生
	新井　大成	ゲーム制作科	1年生
	松井　双綺	高度情報処理科	1年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

１）学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時 ： 令和元年７月８日（月） 13:30 から 17:00

場所 ： 日本電子専門学校 ９号館 メディアホール

２）学校関係者評価委員会 進行状況

（１）事務連絡（挨拶、配布資料確認） 13：30～

（２）校長挨拶

学校関係者評価全体説明

（３）評価方法説明

（４）議長（委員長）選出

（５）学校関係者評価委員会開始 14：00～

自己評価結果の解説とその評価

○教育重点項目

○学校運営

○教育活動

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

○学修成果

○財務

○社会貢献

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

（６）学校関係者評価の総評と意見交換 15：05～15：30

（７）分科会、学校見学 16：00～17：00

学校見学は希望者のみ実施

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① IT・Web 分野分科会

② セキュリティ分野分科会

③ ビジネス分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

⑦ アニメーション分野分科会

⑧ デザイン分野分科会

⑨ CG 分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1）自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和元年度自己点検・自己評価を実施した。自己点検・自己評価の点検項目は、平成 30 年度における「教育重点項目」3 項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」11 分類 63 項目であり、合計 66 項目である。

『令和元年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2）自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『令和元年度自己評価報告書』を用いて、日本電子専門学校の各担当者が、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況及び、自己評価ポイント、評価の根拠、課題、今後の改善方法等について説明した。当日は「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と変わった項目」についてのみの報告し、評価をお願いした。

自己評価報告書　記述例

教育重点項目

1. 職業実践専門課程への対応

平成 25 年 8 月 30 日に告示された「職業実践専門課程」について、対象となる全ての学科の認定に向けた以下の対応を行った。

(1) 教育課程編成委員会・・・各学科の専攻分野に関する企業および関係団体等の要請を十分に生かし、職業実践専門課程の教育を施すに相応しい実践的かつ専門的な教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法改善・工夫等を含む）について検討する委員会。

＜中　　略＞

教育重点項目

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0
重点-1	職業実践専門課程への申請は十分に行われたか	4　③　2　1　0

① 課題

〔　　〕

② 今後の改善方策

〔　　〕

③ 特記事項

〔　　〕

３）自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の２分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会　評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

学校関係者評価　評価記入シート　例

教育重点項目

重点項目１　職業実践専門課程への対応

評価結果	(適切)	不適切

コメント欄

４）分野別分科会の実施

学校関係者委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

① IT・Web 分野分科会
② セキュリティ分野分科会
③ ビジネス分野分科会
④ 電気分野分化会
⑤ 電子分野分科会
⑥ ゲーム分野分科
⑦ アニメーション分野分科会
⑧ デザイン分野分科会
⑨ CG 分野分科会

Ⅱ　学校関係者評価報告書の見方

１．自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 23 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

２．委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

３．分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ　学校関係者評価委員会　評価結果報告

1．総　評

本委員会は、日本電子専門学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

日本電子専門学校が、学校関係者評価委員会を開催するにあたり、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む)、在学生が評価委員の委嘱を受け、評価委員はそれぞれの立場から評価を行いました。

当日の進行としては、まず、全体会にて、前回同様「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と評価が変わった項目」について報告がありました。事前に学校のホームページで自己評価報告書を閲覧できるようにしていただいていたため、問題点の洗い出しが明確になり、委員の皆様も評価がし易かったのではないかと思います。

自己評価報告書に基づく委員の評価につきましては、ほとんどの項目で適切との評価がつけられており、取り組みの内容についても高く評価していました。

最後に、委員の皆様から自由にご意見を伺う時間を設けました。（時間の関係から全員の皆様に個々のご意見をお聞きすることができませんでした）その中で、学生数増加に伴う教員数の不足や、資格取得の目標・目的の設定などに対する意見が挙がりましたが、他にも改善に取り組むべき事項があり、大変有意義であったと思います。

今後、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、船山新校長主導のもとに新体制一丸となって、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願いいたします。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長　舟山　大器

教育重点項目

重点項目１　NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施

評価結果	適切：22 95.6%	不適切:1

コメント欄

①この項目に関しては「継続」が最も大切なことだと思います。時代の流れに沿いつつ、NEXT10 の柔軟かつ確実な実施を期待しております。（浅賀）**→適切**

②夜間部組織刷新のため、令和元年重点項目と利上げをしないとのことですが、今後の夜間部取組予定をお聞かせ頂きたかったと思います。（石本）**→適切**

③特に根本であるカリキュラムポリシー･ディプロマポリシーは、大事なものである。約８割の進捗に留まっているが、それだけ真剣かつ慎重に行っているとも思える。他の項目についても妥当と思われる。（舟山）**→適切**

④夜間部活性化については無理なく実現できるときに、あせらず実施するとよいと感じる一方、今年度は取り上げない理由があるとよいと感じた。（篠原）**→適切**

⑤次年度の上半期に残りの 5 学科の作業を完了するとありますので、次年度を期待します。夜間部活性化は今後行わないのか、いつ頃対応するのかが気になりました。（満岡）**→適切**

⑥進捗 8 割で、新たに 4～5 学科となっているが、もう少し努力が必要かと思います。教育に携わる人材確保が難しいとのことだが、自前では時間もかかるので海外を含め人材を求めてはどうか？また、企業側は、50 代の人材の再教育を模索している。第二の人生を迎える人材に安価に入学できる学科を設置してはどうか。（夜間、土日などで）（中臺）**→適切**

⑦進捗率から「3」の評価が適切（米井）**→適切**

⑧新しい教職員スタッフとなり、良い方向で計画・努力しているように思える。（勝間田）**→適切**

⑨未完成のポリシーは、今年度内にはしっかりと完成してほしい。（四條）**→適切**

⑩ポリシー策定の完成を期待しています。（沼田）**→適切**

⑪ポリシー作成が未完。原因と対策が不明確です。（谷）**→適切**

⑫80%の取り組みから 100%の実施に向けて努力して下さい。（小澤）**→適切**

⑬事実・実績・改善点が示されており、評価は妥当である。（松井）**→適切**

重点項目３　職業実践専門課程への対応

評価結果	適切：23 100%	不適切:0

コメント欄

①順調だと思われてしまうし、フォローアップも良いと思われます。（舟山）**→適切**

②本課程の導入前と後で、どのような変化があるのかが気になっています。（満岡）**→適切**

③いつも詳しく丁寧な説明があり、一つ一つ前向きに取り込んでいるのが好印象です。（米井）→適切

④細かく対応している。（勝間田）→適切

⑤職業実践専門課程への対応に力を入れているのがよくわかりました。（小澤）→適切

⑥認定要件の確認を行い、補足資料の提出遺漏なく対応。（松井）→適切

評価項目の達成及び取組状況

（２）学校運営

2-8　運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか

評価結果	適切：22 95.6%	不適切:0	？：1

コメント欄

①各監事への報連相など上手く機能していると思われる。（舟山）→適切

②各会の実施が規定通りされていて、機能していると感じました。（満岡）→適切

③よくわかりませんでした。専門学校としての運営に、大学法人の規則が必要ならば「3」が適切、不要ならば「4」が適切。・・・ということでしょうか？(米井)→？

④有効に機能していると思うが③から④に次年度はなりますよう検討すると良い。（勝間田）→適切

⑤過渡期ということだと思いますが、既に整っているとのことですので、現状での評価であれば４ということですね。（沼田）→適切

⑥理事会、評議委員会監事のそれぞれの機関が十分に活動しているのが理解できました。（小澤）→適切

2-9　人事、給与に関する規定等は整備されているか

評価結果	適切：23 100%	不適切:0

コメント欄

①人事考課の改善は永遠の課題です。時代の要請に合わせた進歩的な改正改訂を期待しております。(浅賀)→適切

②世代交代の大変な時期ということが良い理解できました。その大変な中でもしっかりと行っている。（舟山）→適切

③業務が非常に多いことが予想され、稼働が上がっているような気がしています。有給消化がどの程度されているかが気になりました。（満岡）→適切

④平均年齢を低げるのは良いが、６０才以上の元気でキャリアのある人材を学生の退学防止などの手伝いをしていただくなど、学校としての厚みをつけて欲しい！（キ

ャリアサポーターとして）（中臺）→**適切**

⑤一般的な水準にあり適切。（米井）→**適切**

⑥技術進歩が速い業界だが、教員 35 才、事務 30 才以下に余りこだわらなく良いのでは。（勝間田）→**適切**

⑦平均年齢、女性教職員比率とも、現在に満足することなく、更に改善の方向に向かってください。（沼田）→**適切**

⑧全職員の平均年齢が下がり、女性教職員の比率が上がったことは将来性を感じます。（小澤）→**適切**

2-11 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか

評価結果	適切:22 95.6%	不適切:0	未記入:1

コメント欄

①妥当であると考えられる。（舟山）→**適切**

②新組織となって、どのような体制になっていくのか気になりました。（満岡）→**適切**

③単なる整備にとどまらない運営がしっかり行われている点と監査機能を備えている点が良い。　（米井）→**適切**

④良好のようです。（勝間田）→**適切**

⑤コンプライアンス委員会が明確でわかりやすいです。（小澤）→**適切**

（３）教育活動

3-14　教育理念等に沿った教育課程編成・実施方針等が策定されているか

評価結果	適切：21 91.3%	不適切:2

コメント欄

①H30 年度の 5 学科ポリシーが策定できなかった理由と対応が書かれておらず残念。R1 年度は達成されるのでしょうか･･･？（石本）→**適切**

②ゲーム分野は世の中の変化が早いので、作っておわりではなく、定期的に見直しするサイクルがあるとよりよいかと思います。（井沢）→**適切**

③「学園生活ガイド」の活用が理解できた。少し厳しめの評価かもしれない。（舟山）→**適切**

④着実に完成に向けて進んでいる。（篠原）→**適切**

⑤ポリシーは不変的なものなのでしょうか？定期的に見直しは行うのでしょうか？学科によって変化の範囲とスピードがだいぶ異なるとは思いますが、見直しは都度行うべきかと思います。（満岡）→**適切**

⑥ポリシー策定済学科が全体の 36%なので「2」が妥当に感じるが、3-16 でカリキュラム体系がしっかりしているので「3」が適切（米井）→**適切**

⑦ポリシーの策定などが、日本電子の根本となるので、ここはしっかり全部（全学科）

で策定する必要がある。④になることが必要と思われる。（勝間田）→**不適切**

⑧ポリシーが予定通りに完成することを期待します。（四條）→**適切**

⑨ポリシーが半完。カリキュラム編成も含め、このスピード感では、つくったものからどんどん古くなってしまいませんか。（谷）→**不適切**

⑩教育理念を踏まえた学園ミッションの位置付け、学園の目指すビジョンが明示されてわかりやすいです。（小澤）→**適切**

3-16　学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

評価結果	適切：22 95.6%	不適切:1

コメント欄

①カリキュラムポリシー策定まだであり、適切な評価と思われる。（舟山）→**適切**

②ポリシーなしにカリキュラムが設定されていて体系的編成と言えるのか？業界の求める人材像と本学で育成する人材の保存すべきスキルを定義し、これを効率的に学べるカリキュラムを設計すべき。アクティブラーニングなど NEXT10 とのリンクも明示して欲しい。（渡辺）→**不適切**

③例の高度情報処理科ではオラクルが資格取得目標のために入ってますが、DB トレンドが変わってきているので、大規模データに対する知識も必要かと思います。（満岡）→**適切**

④学科ごとに基礎から専門分野まで過不足なく体系化されている。（米井）→**適切**

⑤ポリシーに基づいたカリキュラム編成により実施されている。（小澤）→**適切**

⑥「学園生活ガイド」の科目関連図はとてもわかりやすく示されていると思います。（厚川）→**適切**

3-23　資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

評価結果	適切：22 95.6%	不適切:1

コメント欄

①概ね問題ないと思いますが、私が関係する専門分野における「色彩検定 3 級」の資格取得に関しては、少々違和感を感じております。ちょっと安易ではないかと。ゆえに取得率も低いのだと考えます。（浅賀）→**適切**

②最低限の資格とありますので、特に目立つ 2 資格について。
1、色彩検定 3 級（アニメーション科 7.1%、アニメーション研究科 30.0%）2017 年の合格ライン 73.6%、常時合格率 70%の検定での数値はおかしいです。
2、Oracle（OCJP）認定 Java プログラマ SE718　Bronze（ケータイアプリ科 38.5%、情シス科 53.0%、AI システム科 63.0%）正答率 60%で合格。初心者向けなのでもう少し上げられるはず。（特にケータイアプリ科はカリキュラム的にきびしいならビ

ジネス検定ジョブパス 3 級に変更しては？）（石本）**→適切**

③生徒・教員が本当に納得した資格でないものも含まれているのではないか？と。（川﨑）**→適切**

④これも厳しい自己評価を行っていると思う。学生全員が資格取得は高いハードルだと思いますが、このまま頑張っていただきたい。（舟山）**→適切**

⑤私も参加させて頂いていますが、非常に大事な取組みだと認識しています。（満岡）**→適切**

⑥企業は学生の実技能力を重視するが併せて学生の学校での取り組みのバロメーターとして資格取得を見ているので、ぜひともしっかり取り組んで欲しい。（中臺）**→適切**

⑦90%以上の取得率が 10 資格（50%）あるので「3」が適切と思われる。（米井）**→不適切**

⑧資格は就職先や卒業後のステップアップで必要となるので多くの資格が得られるよう努力する必要あり。（勝間田）**→適切**

⑨専門学校として「資格取得」は、非常に重きを置くものだと思います。上位資格取得に向けた、指導を引き続きお願い致します。（四條）**→適切**

⑩表 0-7 の取得率に大きな差があるのは、資格そのものの必要性と関係があり、一律に 100%を目指すのは困難なのではないか。実情を調査する必要があると思います。（沼田）**→適切**

⑪各学科における資格取得状況をみると、科によって 100%～30%程度の差があるが、カリキュラムの中での体系付としては適切だと思います。（小澤）**→適切**

3-24　人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

評価結果	適切：22 95.6%	不適切:0	未記入:1

コメント欄

①2-9 とからめて考えると、40 代の教員も必要なのでは？（47 才男性よりW）（川﨑）**→適切**

②人材不足から、規定の担当コマ数を超えている教員がいる点などは改善すべき点であるが、マイナスを包みかくさずに評価している点は好意が持てる。（舟山）**→適切**

③人材確保という難しい状況を理解しています。（篠原）**→未記入**

④教員の確保はとても難しいと考えています。コアコンピタンスかと思うので、別組織（営利企業の外部設置など）によって大きな変革で取組むべきと考えます。（満岡）**→適切**

⑤新しい分野は人材難で大変ですが、外国人でも良いのではないかと思います。言葉のカベは、いろいろと手法があるのではないだろうか。（中臺）**→適切**

⑥非常勤講師がしっかり確保でいているので「4」に近いと思われる。（米井）**→適切**

⑦非常勤教員 11 名増員とのこと、教員スタッフは多い程良く、学生に対し細かい指導

が可能となるのでは。（勝間田）→**適切**

⑧すべてのサービスの根幹となっている部分のため、よろしくお願い致します。（四條）→**適切**

⑨適正な教員の配置は教育の質に直結するものなので、早急な対応が望まれます。（沼田）→**適切**

⑩人材育成に最適な専任教員がいることが望ましいが、不足している分野では非常勤の先生でも授業の充力が一番大切であると思います。（小澤）→**適切**

⑪これからも不足している分野の専任教員の確保に努めていってほしい（本郷）→**適切**

⑫一人の先生に負担がかからないよう教員の確保は必要だと思います。（厚川）→**適切**

⑬教員の確保を早めにして負担を分散させるべきと思います。（新井）→**適切**

⑭課題、改善方法ともに妥当である。不足する教員の中、カリキュラムへの対応は教員への負担になるのではないか。（松井）→**適切**

（４）学修成果

4-28　就職率の向上が図られているか

評価結果	適切：22 95.6%	不適切:0	未記入:1

コメント欄

①問題ないと考えます。（浅賀）→**適切**

②10 名のキャリアサポーターが配置され、良く機能しているのではないかと思われ、その結果過去最高の高い就職率につながっていると思われる。（舟山）→**適切**

③大変活発な活動が行われていると感じる。（篠原）→**適切**

④過去最高はとても素晴らしいことだと思います。（満岡）→**適切**

⑤複数回の面接訓練を通じて、理論的に自分の考えを説明できるようにして下さい。（舟山）→**適切**

⑥就職率も高くキャリアサポートが行き届いているので適切。（米井）→**適切**

⑦就職率が学校の扉となるので気をぬかず次年度も多くの求人が来るよう努力して欲しいと思います。（勝間田）→**適切**

⑧3-23 同様（四條）→**適切**

⑨就職の数字が大事であることは理解できるが、職業感の醸成に力を入れる事も大切であると思う。（沼田）→**適切**

⑩就職は専門学校の生命（いのち）だと思います。10 名のキャリアサポーターの皆さんの努力が目に見えるようです。（小澤）→**適切**

⑪HR の時間を利用して試験の対策を行うのはとても効果的だと思います。（新井）→**適切**

⑫実績より妥当である。（松井）→**適切**

4-30 退学率の低減が図られているか

評価結果	適切：21 91.3%	不適切:2

コメント欄

①対策ポイントは適切であると思います。（浅賀）**→適切**

②事情はあるにせよ、先年度よりも退学率が僅かに増加している。これは②評価となるのではないでしょうか？（先生方の努力は素晴らしいと思いますが、数値目標がある限りは総論で判断すべきと思います）（石本）**→不適切**

③学習においても「たしかに退学した方がいい」（ネガティブではなく）人もいるかと思います。（川﨑）**→適切**

④キャリアサポーターの努力は分かった。おっしゃる通り「学習」を理由としたドロップアウトに注目すべきだと思う。この改善は良い方向に向かっているといえる。（舟山）**→適切**

⑤学習理由での退学が下がったのは努力の成果だと思います。（満岡）**→適切**

⑥義務教育ではないのだから、自主的な取り組みが大事なのだろうと思う。ただ学校を休みがちになった学生には、人生設計などを含めて、早期に相談にのってあげて欲しい。（中臺）**→適切**

⑦出席率も高く、様々な対策と今後の改善点も明示されているため「4」の評価が適切。（米井）**→適切**

⑧ドロップアウト者にも就職を紹介しているのかな？（勝間田）**→適切**

⑨一定の退学者が出てしまうのは避けられないように思います。地道な日々の取り組みと入学時の学科選択のミスマッチを防ぐことが大切なのでしょうか。（沼田）**→適切**

⑩学習を理由とした休退学対策については、とにかく出席率を上げることだと思います。クラス別出席率が 100%に近いのは大きな業績だと思います。（小澤）**→適切**

⑪学習での不安が理由で来られていない生徒もいるようなので、ドロップアウト対策委員会を立ち上げたことは良いことだと思います。（本郷）**→適切**

⑫実績、対応より妥当である。（松井）**→適切**

（７）学生の募集と受け入れ

7-46　学生募集活動は、適正に行われているか

評価結果	適切：21 91.3%	不適切:2

コメント欄

①対策ポイントは適切であると思います。（浅賀）**→適切**

②募集が多数での、募集ストップは仕方ないと思われます。教員の人員数とのかね合いもありますので　・・・(舟山)**→適切**

③学生が集まり過ぎるという事ですが、機会損失軽減を考え、他学科との調整をして

はいかがでしょうか（満岡）→**適切**

④流行もあるので予測は難しいが、希望を持った学生を全員受け入れられるようにしてあげて下さい。（中臺）→**適切**

⑤募集活動に不適切な点はなく「4」の評価が適切。適度な競争があることも学生のレベル向上につながる。（米井）→**不適切**

⑥定員オーバーでも指定校で希望者がいた場合は、必ず入学させないと信用を失うので、定員オーバーでも入れる必要あり。（勝間田）→**不適切**

⑦募集活動という点からはずれてしまいますが、専門学校は通常、出願が早い順に合格を出すものなのでしょうか。学習意欲の高さは出願の早さにあらわれるものなのか。退学率とも無関係ではないように思います。（沼田）→**適切**

⑧親切できめ細かい活動をしているのがよくわかりました。（小澤）→**適切**

⑨課題、改善方法より妥当。（松井）→**適切**

（８）財務

8-5　財務について会計監査が適正に行われているか

評価結果	適切：23 100%	不適切:0

コメント欄

①問題なしと思います。（浅賀）→**適切**

②公認会計士監査の実施を決定するなど適正であると思われる。（舟山）→**適切**

③費用が要しても公認会計士の監査にもらう事で内容が充実するものと思われる。（勝間田）→**適切**

④公認会計士のよる監査をはじめ、法にのっとった適正な処理がなされていると思います。（小澤）→**適切**

（１０）社会貢献

10-59　地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的実施しているか

評価結果	適切：23 100%	不適切:0

コメント欄

①地域に密着した学校であることは、すばらしい事であると考えます。是非、より一層の施策実行をお願いいたします。（浅賀）→**適切**

②小・中学生においてプログラミング教育やSTEM教育などが言われていますが、その方面への貢献もありえるのかなと。生徒の教育指導をするという仕事の仕方についても、キャリアの方向として考えられるのでは？（川﨑）→**適切**

③妥当であると思われます。（舟山）→**適切**

④もう少し参加者が増えるとよいですね。回数を重ねると周知が広がるものと思います。（篠原）**→適切**

⑤素晴らしいと思います。（満岡）**→適切**

⑥地域に根ざした取組は、就職面接の時も加点材料となるので多くの学生に参加を呼びかけて下さい。（中臺）**→適切**

⑦地域に関わる公開講座が開講されるなど､望ましい方向に向かっていると思います。（渡辺）**→適切**

⑧地域に対する公開講座、教育訓練が積極的に実施されております。（小澤）**→適切**

⑨ボランティア活動は地域の方々との交流を深め、社会貢献にもなるので、多くの学生に参加して欲しい活動です。（厚川）**→適切**

⑩前年度に比べて講座の開催数がかなり増えていて素晴らしいと思う。（新井）**→適切**

⑪実績より妥当である。（松井）**→適切**

総合評価　【学校の改善に資するご意見】

①新しい船山先生の体制につきまして、大大大大期待しております!!!!数年前、陰も形もなかったものとして“学生自治会”があります。これが形となったこと。今後、学校関係者評価委員としての参加を期待する・・・・というお話はとても素晴らしかったと思います。是非実現して頂きたいと高く期待しております。
細かな点についてはいろいろありますが、確実に前進していると思います。これからも頑張って下さい。応援しております。（石本）

②細かいところしっかり評価されている印象です。ゆえに、1度決まったものが、「確定」となり、その後の世の中の変化についていかない・・・ということがないよう定期的に見直しをしていただけると、よいと思います。（井沢）

③いつも前向きな考え、行動に感心しております。船山新校長のもと、このまま頑張って下さい。一点申し上げるとすると、教員の不足にしっかり取り組んでいただければと思います。どの業界も人手不足でありますが、持ち前のパワーで解決できると信じています。（舟山）

④IT 業過ではもはや「新卒」という単語は存在しなくなってきています。つまり、再教育を行なう企業側の体力がなく、学校に行かなくても実績を身に付けられる環境が整っている表れだと思います。この流れは更に加速していき、技術取得目的での入学者は質の低下を想定するべきです。
貴学は日本一の専門学校であることから、オンラインやサテライトでの 24/365 教育サービスの立ち上げを考えてみてはいかがでしょうか？
広告的な意味と教員獲得、就職だけでない新しい出口の提言になると思います。
NEXT10 では、日本の専門学校をけん引するような新しいチャレンジを是非してもらいたいです！！ 微力ながら私も協力致します。（満岡）

⑤1､事前に評価記入シートを開示していただけないでしょうか。
→１００ページの資料全てに目を通すのは労力もかかる

→評価シートの記入がない項目は労力を減らしたい
→コメント記入をスムーズにしたいので
2､全体的に厳しい、自己評価としている評価項目が多いと感じました。これまでの取り組みの成果も着実に上がっていますので、継続的な発展を期待したいと思います。（米井）

⑥細部に渡り細かく、多方面に渡り評価していると思う。これが学校の発展の元になろうかと思います。（舟山）

⑦前回の委員会で「教員の確保」について課題があることについてあげられておりました。今回③の評価がついており、改善に向ってと感じておりますが、資格取得と教員の確保は連携している部分もあると思いますので引き続き、ご尽力をお願い致します。ありがとうございました。（四條）

⑧今後もきちんと自己評価されることを期待します。（沼田）

⑨学生クレドを自主的に作成してもらうための動機付けは大変難しいことであったと思います。これは教育に対する本気の思いが学生に伝わったことの証だと思いました。（谷）

⑩全体としての自己評価は適切と思う。
しかしながら 4-29 資格取得率の向上については、目標達成に向けて一層の注力を望みたい。資格取得は学生自身の自身につながり、モチベーションの向上に大きくつながると思う。（中山）

⑪専門学校としてプラクティカルな実習・実務教育が行われ、同時に学園がアカデミックな色彩すらおびているのを感じます。
レベルの高い教育熱心なスタッフの方々の情熱が目に見えるように伝わりました。
全体の評価については適正に妥当のものと思います。
「建学の精神」を土台に実際に役立つ技術者の養成と同時に、ますますアカデミックな味も付けてください。（小澤）

⑫高度情報処理科の 3 年生になり、就職活動が多くなり、説明会や内定試験で公休をいただき、学校を欠席している間の講義が抜けてしまい、抜けたまま実習を受けると解らないまま進んでしまう。
公休により、抜け落ちた講義の補修やレポート等の資料ともらうことができたらと話しておりました。（植村）

⑬保護者としては生徒がよりよい学習生活ができるように学校側の対応等、これからも期待しております。今後ともよろしくお願い致します。（本郷）

⑭更により良い学校へと改善されることに期待します。（厚川）

⑮自己評価がしっかりされていて、前年度よりしっかりと改善されていることがわかりました。今後も良く成るよう、きびしい自己評価のもと改善を図ってほしいと思います。（新井）

⑯ほぼ妥当と思われる。情報センターをもっと使いやすくしてほしい。（負荷に耐えられる。アクセスの集中に耐えられるようにしてほしい）学校のテキストには訂正がよく見られるので改訂を出して欲しい。（松井）

Ⅳ　令和元年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日　　時：令和元年７月８日　13:30～17:00
場　　所：日本電子専門学校　メディアホール
学校関係者評価委員：

名　前	所　属　（役　職）	区分	ｸﾞﾙｰﾌﾟ
浅賀　央起	株式会社ぴえろ（執行役員）	企業	A
石本　則子	株式会社スタジオフェイク（代表取締役）		A
井沢　祐	株式会社スタジオフェイク（ディレクター）		A
川﨑　紀弘	株式会社コンセント（プロデューサー）		A
乗浜　誠二	株式会社ナレッジコンスタント（代表取締役）		A
舟山　大器	株式会社横浜環境デザイン（社長室長）		A
新 和也	オートデスク株式会社（メディア＆エンターテインメントテリトリーマネージャー）		A
渡邉　登	合同会社ワタナベ技研（代表社員）		A
佐々木　伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社（代表取締役）		A
篠原　たかこ	CG-ARTS（教育事業部　事業部長）	職能団体	A
満岡　秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation（理事）		A
中台　浩正	東京商工会議所 新宿支部（事務局長）		A
米井　翔	一般社団法人組込みシステム技術協会（研修委員会　副委員長）		A
勝間田　清一	日本大学　生物資源科学部　講師	教育関連	B
四條　勇人	株式会社ウィザス（教育運営部 ICT 推進室 室長）		B
沼田　宏	株式会社インターカルト日本語学校（教務部長）		B
植村　美智子			B
本郷　幸子			B
厚川　万里子			B
竹中　伸江			B
谷　伸城	株式会社アプリケーションプロダクト（ソリューション統括本部 プロジェクトマネージャー）	卒業生	B
中山　秀昭	日本電子専門学校同窓会　副会長		B
小澤　博太郎	百人町西町会（会長）	地域	B

菊地　聖治	Ｗｅｂデザイン科（2 年）	在学生	B
阿部　一恵	コンピュータグラフィックス科（1 年）		B
新井　大成	ゲーム制作科（1 年）		B
松井　双綺	高度情報処理科（1 年）		B

日本電子専門学校参加者：

名　前	役　　職
船山　世界	校長
杉浦　敦司	副校長
五十嵐　淳之	クリエイター教育　部長
大川　晃一	エンジニア教育　部長
高橋　陽介	キャリアセンター長
大野　通江	学事部長
小暮　幸雄	広報部長
白石　修一	財務経理部長
丸山　治	人事部長
内田　満	総務部長
君塚 信和	管理部長

進行：

13:30	１．開会（挨拶、配布資料確認）	五十嵐
	２．校長挨拶、学校関係者評価全体説明	船山
	３．学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介	五十嵐
	４．学校関係者評価の進め方説明	五十嵐
14:00	５．議長選出、委員会開始、議事進行	議長（舟山委員）
	６．自己評価結果の解説とその評価の報告	
	教育重点項目（1・3）	船山
	(2)学校運営	内田
		丸山
	(3)教育活動	杉浦
	・・・評価結果の判定（評価）・・・	
	(4)学修成果	高橋
	(7)学生の募集と受入れ	小暮
	(8)財務	白石
	(10)社会貢献	内田
	・・・評価結果の判定（評価）・・・	
15:00	７．令和元年度教育重点項目	船山
15:05	８．意見交換	
15:30	９．全体会終了	
15:35	10．終了	
16:00	11．分野別分科会（Ａグループ委員）	
	校内見学（Ｂグループ委員中希望者のみ）	

＜分野別分科会/校内見学＞

Ａグループ			Ｂグループ
16：00	分野別分科会		16：00　校内見学
	①IT・Web	1B13 教室	7 号館、本館
	②セキュリティ	152 教室	（校内見学希望者のみ）
	③ビジネス	153 教室	
	④電気	1011 教室	
	⑤電子	791 教室	
	⑥ゲーム	441 教室	
	⑦アニメ	752 教室	
	⑧デザイン	772 教室	
	⑨CG	931 教室	
17：00	終了		16：30　終了

1．全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業/ゲーム）株式会社コンセント　川﨑様】
資格取得について､私の教えている大学の生徒によると｢取らなければならないので、一応入れてみた」という資格があるようだ。教員からみても「学生に取得させる必要があるのか？」といった資格がもしかしたら含まれているかもしれず、それが取得率の低下につながっているのではないか｡無理に目標資格を設定する必要はないと思う。

【(企業/ＩＴ・Ｗｅｂ）合同会社ワタナベ技研　渡邉様】
「カリキュラムが体系的に編成されているか」という項目に対して、カリキュラムの資料が１年後期の分しか提出されていなかったため「不適切」とした。アクティブラーニング等も意識しつつ、求める人材像やカリキュラムの流れをもう少し明示してはどうか。
カリキュラムをより洗練させながらチャレンジし、我々の業界に良い人材を提供していただきたい。

【(職能団体/CG 映像）CG-ARTS　篠原様】
初めて委員会に参加したが、かなりしっかりと取り組んでいる、メンバーがしっかり揃えられていると思った。他にもいくつか委員会を受けているが、学生が委員に入っているのは初めてである。

【(高校教員等）株式会社ウィザス　四條様】
資格取得の目標値とともに､教員の確保が課題であるとの話をいただいた｡3-23､3-24は連携しているものと感じている。各種対策をされていると思うが、教員の確保についてはぜひ取り組んでほしい。

【(卒業生）　中山様】
学校が各種提案について、常に対応を行っていると感じた。
資格取得について、学校側は「必要最低限のもの」という形で目標提示をしていると思うが、その達成率が伸び悩むというのは、より一層の努力が必要だと思う。
自分も学生時代に資格を取得したが、そういった経験が学生の自信となり、より上位の資格を目指す、スペシャリストに一歩近づくモチベーションの向上につながる。学生の自信を高めるという意味でも、何のためにその資格が必要なのかをより細かく説明し、目標を明示することが必要である。

【(保護者)　竹中様】
専門学校にこのような組織があることを初めて知った。資格取得率を上げるのは難しい取り組みだが、保護者として応援していきたい。

【(在学生)　松井様】
授業を受けていて、教員が十分な知識を持っているのでとても心強い。ただ、教員数が不足している中で新しい科目を導入することにより、テキスト作成等、教員の負担が増える点を考慮してはどうかと思う。

【(議長) 株式会社横浜環境デザイン　舟山様】
教員数の不足と、資格取得の目標・目的をどこに持っていくのかという 2 点が意見として挙がったが、全体的に非常に厳しく自己評価をしていると感じる。
船山新校長の元、このままどんどん切り拓いていってほしい。

２．分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
３．意見交換
４．その他

【分野】

① IT・Web 分野分科会
② セキュリティ分野分科会
③ ビジネス分野分科会
④ 電気分野分科会
⑤ 電子分野分科会
⑥ ゲーム分野分科会
⑦ アニメーション分野分科会
⑧ デザイン分野分科会
⑨ CG 分野分科会

IT・Web 分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　情報処理科、情報システム開発科、高度情報処理科、ケータイ・アプリケーション科
AI システム科

出 席 者：　①学校関係者評価委員

（企業）満岡　秀一　一般社団法人 Open Embedded Software Foundation　理事
乗浜　誠司　株式会社ナレッジコンスタント　代表取締役
渡辺　登　株式会社アフレル
エデュケーション・プランナー　事業企画室　室長

（合計３名）

②日本電子専門学校

出崎　誠司	情報処理科科	学科長
柳橋　宏樹	情報システム開発科	学科長
糠盛　創	高度情報処理科	学科長
大川　晃一	ケータイ・アプリケーション科	学科長
福田　竜郎	AI システム科	学科長

（合計５名）

次　　第：
１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
＊就職状況、中退学状況、資格取得状況、オリジナル教材作成状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について(オリジナル教材)

＜意見＞
・オリジナル教材の比率を増加させる狙いがあると思われるが、一般の書籍にも教科書として良い内容もあると思われる。

議題２　昨年度の教育活動実績について(資格取得状況)

＜意見＞
・会社側からすると外注先へのアピールになることもあり、可能であれば取得して欲しい。また、企業によっては昇格時にも役立つ
・可能であれば学生時代に資格を沢山、取得してくれるように指導も必要である。

議題３　昨年度の教育活動実績について(実施プロジェクト)

＜意見＞
・情報処理科については、今後、参加することが望ましい
・可能であれば先生主体で学生を指導するのではなく、学生個人が色々と率先して行動していくことが、理想である。
・IT 分野への各種コンテストのテーマとして、セキュリティや生活密着型の内容が近年、評価されている。

議題４　昨年度の教育活動実績について(企業連携状況)

＜意見＞
・産学連携企業によるインターンシップなども依頼して、システム開発の体験などを依頼すると、スキル向上すると思われる。
→学科の一部にシステム開発の全工程ではないが、テスト項目に関するインターンシップを実施し、成果が得られている。

議題５　昨年度の教育活動実績について(中退学状況)

＜意見＞

・転科期間など質問があり、入学後、4月末でと伝えたところ、退学者を低減させるためには、可能であれば長めの期間設定、3ケ月、6ケ月とか可能であれば検討してみて欲しい。

その他

＜意見＞

なし

ま と め: 今回の分科会では教育活動実績報告ならびに取り組みについての報告が中心であったが、教育に関する意見として、資格取得と企業連携に関する意見をいただいたこともあり、今後、科内ならびに教育課程編成委員会でも検討したい。

以上

セキュリティ分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　ネットワークセキュリティ科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）佐々木　伸彦　　ストーンビートセキュリティ株式会社
代表取締役　チーフ・セキュリティ・アドバイザー

（合計１名）

②日本電子専門学校
姜　　怜和　　ネットワークセキュリティ科　学科長
園田　昌平　　ネットワークセキュリティ科

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
＊資格取得、オリジナル教材、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について
＜意見＞
・在籍状況について、留学生が増えたことによるドロップアウトの増加については理解した。また、日本人学生の潜在的に抱えている問題があることも理解した。
・資格取得状況では、対象資格を学科中心カリキュラムに対応したものに変更したため、100%の取得率を達成したことは望ましい。
・就職率について 2 クラスとも 100%達成し、連続で高就職率の維持していることは望ましい。

議題２　サイバー関連の新規カリキュラム作成及び導入状況について
＜意見＞
・昨年度から進めている新規科目「サイバーディフェンス」のカリキュラム完成及び導入については理解した。
・前記新規科目に対するカリキュラムの充実度を向上させるために、セキュリティアプライアンスの導入が完了。学生の理解力の向上に努める方向で進めることが望ましい。
・シスコネットワーキングアカデミーでの新コース「Cybersecurity　Operations」も導入が可能になり、実施する予定である。
・サイバーセキュリティに関連する情報収集及び提供に協力していける部分は協力する。

ま と め:　2 年次におけるグループワークによる、クラス内でのコミュニケーション力の向上に努めている。その方向性は非常に望ましいと賛同を受けた。引き続きコミュニケーション向上に工夫が必要と感じている。「サイバーセキュリティ」関連のカリキュラム構成も充実でき、今後コンテンツや内容の更新を検討していく。
また、実習環境でも、クラウド環境も含め今後の検討課題として捉えていきたい。

以上

ビジネス分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　情報ビジネスライセンス科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（団体）原　洋一　　一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
理事　事務局長

（合計１名）

※当日ご欠席のため、開催せず、後日書面にて実績報告を行い、意見を頂いた。

②日本電子専門学校
谷口　英司　　情報ビジネスライセンス科　学科長

（合計１名）

次　　第：　１．昨年度の教育活動実績報告　※書面により報告
＊就職状況、中退学状況、資格取得状況、オリジナル教材作成状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
２．意見交換　※書面により意見聴取
３．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について

（1）オリジナル教材作成状況
＜意見＞
・　オリジナル教材が良いかどうかは必ずしも何とも言えません。情報ビジネスにおいては、IT 環境は刻一刻と変化しており、情報が古くなることもあるでしょうから、現状でも良いのではないかと思います。一概に他の学科とは比較はできないものと思います。

（2）資格取得状況
＜意見＞
・　MOS100%取得は素晴らしいことですね！おめでとうございます。
あとは IT パスポートも全員が取得するようになると良いと思います。

（3）実施プロジェクト
＜意見＞
・　内容的にこれだけではわかりませんが、ビジネスプロデュースはネーミング的には良いと思います。判定結果も知りたいところです。

（4）教育課程編成委員会の意見の活用状況
＜意見＞
・　特になし。

（5）企業連携状況
＜意見＞
・　良いと思います。

（6）大会、コンテストの実績
＜意見＞
・　おめでとうございます。

議題２　昨年度の就職率及び中途退学率について

＜意見＞

・　特になし。18JL は２名になってしましたが、退学理由も知りたいところですね、その内容次第では改善が必要なことが見えてくるかもしれません。

その他

特になし。

ま と め:　今回は業務の都合でご欠席となったが、後日書面にて意見を伺った。

伺った意見は、今後の学科運営にとって参考になるものであったので、今後の検討課題とし、反映を目指していく。また必要に応じて、教育課程編成委員会での検討事項としても取り上げる予定である。

以上

電気分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　　電気工学科、電気工事技術科、高度電気工学科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）舟山　大器　株式会社環境デザイン
PV 事業部　営業戦略室　室長

（合計１名）

②日本電子専門学校
山路　哲平　　電気工学科／高度電気工学科　学科長
高橋　俊幸　　電気工事技術科　学科長

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
＊就職状況、中退学状況、資格取得状況、オリジナル教材作成状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について
＜意見＞
〇電気工学科
・昨年度の教育課程編成員会での意見をうまく活用できているとのことで今後も、技術に対する教育の質を高めていけたら良いとの意見を頂いた。
〇高度電気工学科
・昨年度の教育課程編成員会での意見をうまく活用できているとのことで今後も、技術のみならず社会人としての質を高める教育を行えれば良いとの意見を頂いた。
〇電気工事技術科
・昨年度の教育活動としては、教育課程編成委員会で挙がった意見に対して、適切に活用されているが、今後も継続して教育の質を高める内容等を実施するよう意見を頂いた。

議題２　オリジナル教材について
＜意見＞
〇電気工学科
実習科目　5/5　100%
・今後も継続して内容の確認が必要との意見を頂いた。
〇高度電気工学科
実習科目　11/11　100%
・今後も継続して内容の確認が必要との意見を頂いた。
〇電気工事技術科
実習科目　8/9　88.9%
・実習科目を中心に作成してあるので問題がないとの意見を受けたが、継続して内容の確認が必要との意見を頂いた。

議題３　資格取得状況

＜意見＞

○電気工学科

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	取得率
第三種電気主任技術者	③	62名	3名	4.8%
第一種電気工事士	③	62名	41名	66.1%
第二種電気工事士	③	62名	53名	84.1%

①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

※その他受験した資格、エネルギー管理士（電気分野）、
２級電気工事施工管理技術検定、工事担任者DD3種、DD1種、
１級陸上特殊無線技士、危険物取扱者乙種４類、消防設備士甲種第４類、
乙種第６類、乙種第７類、第三種冷凍機械責任者、２級ボイラー技士

・今後も継続して、学生に対して資格取得のメリット（目的）を明確することが重要との意見を頂いた。

○高度電気工学科

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	取得率
第三種電気主任技術者	③	35名	0名	0%
第一種電気工事士	③	35名	20名	57.1%
第二種電気工事士	①	11名	11名	100%
ｴﾈﾙｷﾞｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	③	15名	15名	100%
第二級陸上特殊無線技士	①	9名	9名	100%

①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

※その他受験した資格、エネルギー管理士（電気分野）、
２級電気工事施工管理技術検定、工事担任者DD3種、DD1種、
１級陸上特殊無線技士、危険物取扱者乙種４類、消防設備士甲種第４類、
乙種第６類、乙種第７類、第三種冷凍機械責任者、２級ボイラー技士

・今後も継続して、学生に対して資格取得のメリット（目的）を明確することが重要との意見を頂いた。

○電気工事技術科

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	取得率
第二種電気工事士	①	20名	20名	100%
第一種電気工事士	③	20名	7名	35.0%
ｴﾈﾙｷﾞｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	③	39名	39名	100%

①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

・目標資格取得について概ね問題がないとの意見を受けたが、学生に対して資格取得のメリット（目的）を明確にすることで意識を更に高めることができるのではと意見を頂いた。

議題４　中退学状況

＜意見＞

・中退学理由として、学習面ではなく健康上の理由のため、やむを得ないとの意見を頂いた。

学科及びクラス		年度初期人数	年度終了時人数	ドロップアウト理由
高度電気工学科	16KZ	11名（13名）	11名	－
	17KZ	9名（11名）	9名	－
	18KZ	15名（15名）	15名	－
電気工学科	17KJ	37名（44名）	35名	・健康上の理由（2名）
	18KJ	30名（30名）	28名	・縁故による就職 ・健康上の理由

学科及びクラス		年度初期人数	年度終了時人数	ドロップアウト理由
電気工事技術科	17KK	39名（42名）	39名	－
	18KK	20名（20名）	20名	－

※括弧内は入学時の人数

議題５　就職状況

＜意見＞

・学生指導を含め、電気業界への就職が適切に行われているため、特に問題がないとの意見を頂いた。

学科	人数	就職率
電気工学科	33名	100%
高度電気工学科	11名	100%
電気工事技術科	38名	100%

ま と め:　昨年度の取り組みについて概ね良い意見を頂いたが、資格取得についてまだまだ向上の余地があるので、試験対策を講じていかなければならないと感じた。また、教材テキスト更新について、内容改善、確認し、適切に実施していきたい。

以上

電子分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　電子応用工学科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（団体）米井　翔　一般社団法人組込みシステム技術協会
研修副委員長

（合計１名）

②日本電子専門学校
仲田　英起　　電子応用工学科　学科長

（合計１名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
＊就職状況、中退学状況、資格取得状況、オリジナル教材作成状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について
＜意見＞
・資格の取得状況、教育課程編成委員会の活用状況など問題ない。
・言語については C 言語などで基本的なアルゴリズムから教えている点は継続してほしい。特に Python のみしかやってこなかった学生が新入社員となりコードがかけずに苦労しているため。基本をしっかりやってほしい

議題２　ドロップアウト率について
＜意見＞
・ドロップ原因や状況を把握している点はよい。
・留学生が多い現状を鑑みると途中で進学や就職である程度ドロップアウトが出るのは致し方ない面もあるのではないか。もっと入学時に意思確認を徹底してはどうか。

議題３　オリジナルテキストについて
＜意見＞
・オリジナルテキストは充実していてよい。ただよそであったことがだが、オリジナルテキストに編重しすぎると、教員が教えやすいところに内容が偏り、必要な項目が漏れていた事案があるため、注意する必要がある。
・市販のテキストでも良本があり、協会でも講習会時になどに、協会のテキストのみではなく、（協会外の）良本のテキストを採用することも多い。特に電子の基礎部分などはそういう教科書を採用しても良いのではないか。

その他　HR 等で企業による業界ガイダンスの実施について
＜意見＞
・例年実施しており、そこから業界に興味をもち、実際に就職に結びついた。今後も継続していきたい。

ま と め:　今回の分科会で現在の学科が学生にとって良い方向へ向かっていることが分かった。また、今回頂いた意見を活用し、時代のニーズに即したエンジニア教育を実践していきたい。

以上

ゲーム分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　ゲーム制作研究科、ゲーム制作科、ゲーム企画科

出 席 者：　①学校関係者評価委員

（企業）石本　則子　株式会社スタジオフェイク
代表取締役

井沢　祐　　株式会社スタジオフェイク
企画デザイン部マネージャー

（合計２名）

②日本電子専門学校

井上　直樹　　ゲーム制作研究科／ゲーム企画科　学科長

松島　秀夫　　ゲーム制作科　学科長

（合計２名）

次　　第：

１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
　＊就職状況、中退学状況、資格取得状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について

＜意見＞

■　退学率に関して企画科を例にとりながら意見を聴取。

- 「eスポーツ（系）」の科目導入を検討してみてはどうか。ユーザーの立場やユーザー視点での分析・検証などといった内容を企画科の授業として実施しても良いと思う。業界が注目しているものでもあるので、「楽しい授業」（やめないための授業）として１つ導入してはどうか。
- eスポーツ系の団体に絡んでみるのも１つ。AR・VR＝eスポーツのような内容を導入したりしながら、学生の得意（好きな）な内容を増やしていくことでドロップアウト防止になるのではないか。
- eスポーツ学科設立は、日本電子専門学校に合っているかどうかを考える必要があるが、時期尚早ではないか。今、eスポーツは、来年オリンピックがあるため流行っている傾向もあるのではないか。

■　発達障害等の対応について

- 学校として産業医（メンタル専門医師）の導入を真剣に検討するべきではないか。
- 発達障害チェックテストを実施すべきではないか（入学後でも）
- こういった対応まで教員が行っていると教員にも余裕がなくなり、授業準備等にも支障がでる。専門の部署を強化すべきではないか。
- 周りに発達障害であることを伝え、理解し対応することも大切。将来そういった人と仕事をすることもあるので、心の準備にもなると思う。

ま と め:

学生のドロップアウトの原因の一つとして、孤立している学生も多い。ゲーム分野の場合は、学生の共通の話題として「ゲーム」がある。普段無口な学生や、休みがちな学生でも、放課後の部活動等は休まず出席していることがある。このように共通の話題を授業に取り入れ「楽しい授業」を作ることが重要であることを再認識した。H.R.等を含めて「楽しさ」を取り入れた授業運営を検討していきたい。

近年、発達障害（と思われる）学生が多く入学している。その為、担任、科目担当教員も対応に苦慮している。もし、事前にある程度わかればその学生への対応を変えることが出来ると考えられる。

各学科とも非常勤教師への指導方法は伝えてあるが、より細かい情報があれば、また別の指導方法も考えられる。性格適性試験等の導入も含め、情報の収集と活用を考えていきたい。

以上

アニメーション分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　アニメーション科／アニメーション研究科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）浅賀　央起　　株式会社　ぴえろ
総務人事部長

（合計１名）

②日本電子専門学校
坪井　翔　　アニメーション科／アニメーション研究科　学科長

（合計１名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
＊資格取得、オリジナル教材、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について
＜意見＞
・採用が早まる昨今、ポートフォリオの講評会が一年生を対象に実施出来たことは良いと思う。就職準備学生は勿論のこと採用側の競争意欲も高めることが出来る良い機会だと感じた。
・資格取得率が低いことが気になる

議題２　学科カリキュラムについて
＜意見＞
・他校の視察も行っているが、現状ここまでデジタル作画が進んだ学校はない。
・デッサン科目は観察する力を養う内容になり、充実したと感じる。

議題３　資格について
＜意見＞
・学校として資格を取らせる取り組みは良いと思うが、学生の目的と取得するべき資格がマッチしているかは疑問が残る。（スマホの普及に伴うパソコン離れが見られる。そのため、ワードやエクセル、パワーポイントなどのビジネスソフトつかえた方が良い。加えてコンピューター技術者検定、ビジネス検定なども職種によっては採用の加点ポイントとなる。アニメは分業制であるため、資格も多様性をもって対応するべきではないか。

ま と め:　本校のアニメ系学科の教育に対して、例年通り概ね賛成を頂けた。質・量ともに適切なカリキュラムが組めているとの評価であった。資格に関してはひとつではなく、学生の目的に合わせて複数あってもよいのではとの意見があり、今後模索していきたい。業界全体で導入・研究が進むデジタル作画では、本校は早くから設備の導入が実施されており、企業やクリエイターを招致してのセミナーも積極的に行っているので、委員の要望の通り今後も精力的に機会を増やして行きたい。

以上

デザイン分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　グラフィックデザイン科、Webデザイン科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）川崎　紀弘　株式会社コンセント

（合計１名）

②日本電子専門学校
植田　誠一　　グラフィックデザイン科　学科長
小山内　靖美　Webデザイン科　学科長

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
＊就職状況、中退学状況、資格取得状況、オリジナル教材作成状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について

【グラフィックデザイン科教育活動実績】

① オリジナル教材：66.7%→66.7%

② 資格取得：色彩検定３級（88.9%）、情報デザイン試験初級（95.0%）
ACAIllustratorCC（22.2%）ACAPhotoshopCC（16.7%）

③ 実施プロジェクト
・第13回若年者ものづくり競技大会
・新宿クリエイターズフェスタ2018出展
・学科横断プロジェクト「学ラボー2018」
・専門学校アート＆デザイン展（SEBIT2019）出展
・Japan IT Week 2018秋出展

④ 教育課程編成委員会の意見活用状況
従来の１年次後期科目「デザイン設計・プレゼンテーション」を今年度後期より「プランニング」とし、内容もマーケティングとプランニングに特化する。

⑤ 就職状況100%
内訳：単位/人（デザイン会社６　印刷会社８　インハウスデザイナー1　関連アルバイト１　フリーランス１　一般職2）

⑥ 中退学状況
１年生：22名入学18名進級（体調不良　進路変更　転科など）
２年生：23名入学20名卒業（除籍　進路変更など）

【Webデザイン科教育活動実績】

① オリジナル教材：66.7%→81.8%

② 資格取得：色彩検定３級（49%）、情報デザイン試験初級（94%）

③ 実施プロジェクト
・第13回若年者ものづくり競技大会（銅賞、敢闘賞）
・第56回技能五輪全国大会（銅賞）
・学科横断プロジェクト「学ラボー2018」
・善通寺 地域創生ITサマーキャンププロジェクト
・第2回 専門学校HTML5作品アワード（デザイン賞、技術賞、企業賞）
・Japan IT Week 2018秋出展

④ 教育課程編成委員会の意見活用状況
プロトタイプツールとしてAdobeXDを導入。後期授業の進級制作実習では、進級企業4社とのデータのやり取りや、UI確認などでXDを実践的に活用。Adobe株式会社よりXD教育事例取材。
後期授業の卒業制作実習では、チーム制作において、Slackを活用。

⑤ 就職状況
89%

⑥ 中退学状況
１年生：30名入学26名進級
２年生：20名入学19名卒業

議題２　オリジナル教材を作る上で、工夫すべきポイント（媒体や構造、ルールなど）があれば教えてください。

＜意見＞

・オリジナル教材は、学科科目すべてにおいて作るのではなく、科目ごとの特性や内容に応じて検討していくことが大切なのではという意見を頂いた。

議題３　業界の方が集まる勉強会やイベント等で注目されているものや、話題のテーマなどがあれば教えてください。

＜意見＞

・グラフィック業界とWeb業界では、勉強の仕方や情報のキャッチの仕方・共有の仕方が異なる。グラフィック業界の方は、自分が日々の生活から感じる雰囲気などを元にトレンドなどをキャッチし、自分の仕事に取り入れる。Web業界の方は、外部での勉強会やセミナーなどを頻繁に行い、新しい技術やツール、トレンドなどに敏感に積極的にシェアしながら勉強を行う傾向にある。

その他

＜意見＞

・株式会社コンセントでは、社内でのスキルアップを目的にした社内勉強会も多く、業務として取り組まれている。デザインのハウツーからプロジェクト管理の仕方、組織の作り方など幅広い情報を掲載するサイトも社員だけに公開。月２回のペースで、マガジンやレポートなども公開されている。

・デザイン職においてもクライアントに応じてPowerPointでのプレゼンを課せられる傾向もあり、在学中にPowerPointのオペレーションをある程度突き詰めておくことで就職後の武器になる。

・グラフィックデザインにおいても動画編集やアートよりの業務も増えている。紙媒体のみではない昨今の制作業務に携わるのにAfterEffectやPremiereを使いこなせるスキルは必要。

ま と め：グラフィック業界、Web業界に携わる業界人の現在のトレンドに対しての情報収集方法やその特徴などを聞くことが出来たことは、今後教員が研修を検討する、受講する際の参考になった。現状の業界傾向を知ることで、今後のシラバス作成等にも生かすことが出来る。

以上

CG 分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　コンピュータグラフィックス研究科、CG 映像制作科、コンピュータグラフィックス科

出 席 者：　①学校関係者評価委員

（企業）新　和也　　株式会社オートデスク
メディア＆エンターテインメント セールスマネージャー
篠原　たかこ　公益財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS）

（合計２名）

②日本電子専門学校
岡野　正信　　コンピュータグラフィックス科　学科長
永井　紀雄　　CG 映像制作科　学科長
金　統一　　コンピュータグラフィックス研究科　学科長

（合計３名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．昨年度の教育活動実績報告
＊就職状況、中退学状況、資格取得状況、オリジナル教材作成状況、教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　昨年度の教育活動実績について

＜意見＞

・CG 分野の学生別就職状況一覧では、非常に多くの学生が CG 関連業界に就職できており、教育成果として充分である。

議題２　CG 関連業界の現状と今後について

＜意見＞

・CG 映像系のプロダクションは、デザインも含めてもらわないと CG が作れない工場のような受託マインドの企業が増えており、そのような企業では、オリジナルコンテンツの制作等に必須なデザイン力や発想力に秀でたデザイナー不足に悩んでいる。なお、ゲーム業界やアニメ業界ではデザイン力のある人材の不足はないようだ。
・CG の仕事はたくさんあるが儲からなくなってきている。どこでもできる仕事ではなく、デザインやクリエイティビティ面等において、その会社だからこそ結果が出せるという点が重要になってくる。また、オリジナルキャラクターやコンテンツなど IP（知的財産）事業に取り組むスタジオも増えつつある。
・Netflix は単価が高い。
・スタジオでは Sola Digital Arts が好調のようだ。
・フィリピンの CG 業界が発展し、日本からの外注が増えている。また、バンダイナムコゲームスがマレーシアに設立したスタジオは当初の 20 名から 100 名になりクオリティも高い。アジア各国と日本の関係は引き続き重要である。
・最近の CG 業界は動きやトレンドなどスピードが速く、5 年後の予測も難しいのでは？と感じている。学校にとっては業界のニーズをカリキュラムやポリシー等に反映させることはなかなか大変であろうと思う。

議題３　今後の教育活動について

＜意見＞

・デザイナーとしての素養や発想力の教育は難しいが、学生に「きっかけ」を与えることはできると思うし、学生も変わるだろう。映像や演出論などのロジックな部分を知ることも重要である。

・最近注目されている Web サイト「Artstation（アートステーション）」に作品をアップしている日本人は少ないように思う。ハイレベルな作品が多いが、学生たちには臆せず自分の作品を積極的に人に見てもらうようにした方がよい。

・プロによる講演会もよいが、同世代の学生の取り組みを紹介するのもよい刺激になると思う。最近では、武蔵野美術大学の松島友恵さんが自身の卒業制作作品を解説するオンデマンドセミナー「美大生が Maya で描く背景映像の世界」が好評だった。また、京都ほぼ独学で 3DCG を学び、造形大学芸術大学の学生時代から作品が注目された今川真史さんによる「キットバッシュモデリング ウェビナー」も日本電子専門学校から 28 名の視聴登録があった。学内でも３年生と１年生など、学生同士の交流も積極的に行なってはどうか？

その他　他校の取り組みについて

＜意見＞

・吉田学園情報ビジネス専門学校のコンピュータグラフィックス学科では、3D のキャラクターアニメーション中心の教育を行なっている。

・九州の専門学校ではモデリングに力を入れているところがある。教材は豊富ではないようだが調べ方や学習の仕方を教えている。

・ベルギーの学校では基本的な CG ツールのオペレーション教育を１ヵ月半で終える。どんどん脱落していくが、優秀な学生が残っている。

ま と め:　CG 分野の分科会では、全ての CG 関連企業で使われているソフトウェアを提供し、業界と幅広い交流のある委員と、CG 関連の人材育成を中心に事業を展開する委員とにより、CG 業界の現状とともに今後の教育活動を検討する上で参考になる意見を伺うことができた。評価委員から頂いたご意見は、教育課程編成委員会のご意見とともに今後の教育活動に活かしていくこととしたい。

以上